

## 「音にいのちあり〜鈴木鎮一 愛と教育の生涯〜」

9月29日(日)、まつもと市民芸術館ホールで上演された総合舞台劇「音にいのちあり〜鈴木鎮一 愛と教育の生涯〜」。松本市芸術文化祭60周年、鈴木鎮一先生生誕120周年、没後20周年を記念し、松本市民300名を越すキャスト、スタッフが情熱を注いだ話題の特別公演でした。足掛け2年に及ぶ企画として、127回に及ぶ稽古と台本の推敲が重ねられてきました。

脚本・演出・総合プロデューサーとして獅子奮迅の活躍をしながらも、鈴木鎮一先生の母親、お良と鈴木先生の奥様、ワルトラウト夫人のダブルキャストも演じられた美咲蘭さんを始め、各方面の方々から、興奮冷めやらぬメッセージをいただきました。

### 公演を終わって

脚本・演出・総合プロデューサー  
美咲 蘭

二千数百名の観客の皆様からの鳴りやまぬ大きな拍手、お見送りに出たロビーでの「鈴木先生の生涯がよくわかり、庄巻の舞台でした」「海外での鎮一先生のご活躍を目の当たりにしたよきに思い、感動しました」「素晴らしいかったです」「涙が止まりません」というお言葉の数々と力強い握手をいただきました。

「鈴木鎮一先生を松本にお迎えして音楽院を作ろう」という発起人のお一人、熊勢豊様のご紹介で、私が高校生の頃、鈴木先生



鈴木鎮一先生役の成田俊郎さんと、ワルトラウト夫人役の美咲蘭さんの熱演が続きました

のもとに出入りさせていただき、そのつど、様々なお話をお聞きすることがとても楽しみでした。鈴木先生の会長室に入ってよろしいのか、ご都合を伺ってくださる事務局長は、ヨーロッパ各国で室内楽やソリストとしてもご活躍の志田とみ子先生のお父様だったと記憶しております。

その後、私が学生時代から所属していた劇

組み、候補作品12本の中から5本を選び、理事会総会を経て、この作品に決定されました。資料集めと取材を重ね、2018年1月に市民公募オーディション、4月8日にキャストイング発表、そしてゲネプロを含めると127回のお稽古が組まれました。結城賢二郎・元鈴木鎮一記念館館長と鈴木鎮一先生の姪で、前才能教育研究会会長の鈴木裕子先生による講演とビデオ学習に始まり、熱心な講師陣による演技、日舞、社交ダンス、声楽のワークショップなどが続きました。

お稽古の前半はストーリーの時代背景への理解を深め、そして読み合わせ、立ち稽古

通し稽古へと進み、公演本番を迎えることになりました。この大規模な音楽舞台プロジェクトへの参加者は、心に鈴木先生への敬愛や思い出を抱いている方が多く、厳しく長い道のりを、ともに歩んでくださったことに深甚なる感謝を申し上げたいと思います。言葉や文章の背後にあるサブテキストを理解し、役作りをして、ともに生き生きとした各場面を作り上げてゆくことは、精神的にも肉体的にも大変な作業なのです。土日の稽古には電気釜で炊飯し、持ち寄ったおかずでお昼の団欒をしながら、皆で「同じ釜の飯を食つたり」…。代役と演出者のマンツーマン

場面をミラーとして役作りにも再チャレンジするといった創作活動の日々を通して、各人が新たに学び直し、自意識をかなぐり捨て、役に立ち向かう力強さと勇気が備えられてきたように思います。国際人の鎮一先生の99年の生涯にわたる舞台ですから、準備すべきことは山のように多く、名古屋ことばの学習に始まり、ドイツ語と英語も台詞に取り入れられました。劇中で暗譜する合唱は口曲、特にドイツ語で歌う「婚礼の合唱」(ワグナー…歌劇「ローエングリン」より)などは大変でした。舞踊担当は4チーム、演技者による舞踊も

### 総合舞台劇「音にいのちあり〜鈴木鎮一 愛と教育の生涯〜」

2019年9月29日(日)

昼公演 12:30 開演

夜公演 17:30 開演

まつもと市民芸術館主ホール

#### 物語の流れ

- ・序章 名古屋の子守唄
- ・第一景 三味線作りの工房 鈴木政吉の家
- ・第二景 愛知県師範学校の音楽室
- ・第三景 再び三味線作りの工房 一鈴木政吉の家
- ・第四景 名古屋市の鈴木バイオリン工場
- ・第五景 東京麻布の徳川義親侯爵邸
- ・第六景 ベルリンの街 カール・クリングラ教授の家
- ・第七景 ベルリン アインシュタイン博士の家の演奏会
- ・第八景 ジング・アカデミー通りのバス停留所
- ・第九景 ベルリンの大聖堂にてワルトラウト・プランゲとの結婚式
- ・第十景 帰国一名古屋へ一鈴木政吉の家
- ・第十一景 木曾福島 鈴木鎮一の家
- ・第十二景 松本音楽院開設
- ・第十三景 本郷小学校実験教室
- ・第十四景 才能教育会館落成式と幼児開発協会
- ・最終章 音にいのちあり 姿なく生きてフィナーレ

主催：松本市・松本市教育委員会

共催：公益社団法人才能教育研究会

主管：松本市芸術文化祭実行委員会  
(会長 鈴木裕子)

スズキの子どもたちも、延べ150人が参加しました



木曾踊りやオリジナル曲のダンスシーンなど4曲に取り組みました。装いでは、100着に上る衣装縫製購入に加え、ウィッグ・髪飾り・リボン・半襟・パニエ・アクセサリー・履物・帯・着物・羽織・袴など我が家と岩波美佐穂助演出の倉庫から数10回に及ぶ衣装運搬を重ね、明治から昭和にかけての時代の女性の髪形と衣装、旧制高校の袴姿の学生、鹿鳴館時代の東京人、ベルリンでのドイツ人、アメリカ人講師や大統領家族の衣装髪形を設計し、縫製手直しを繰り返し、大道具設計者にも幾度も舞台設定の変更を依頼し、協議を重ねました。演出中にお願したのは、構図を取るための舞台の立ち位置ですが、エロキューション（語り口）・交わり合うまなざし・表情・音程・フレージング（フレスのタイミング）・音の強弱・高低・テンポなどをしっかりとマスターできるように指導しました。伝達技能において、話の内容10%、声30%、表情60%（メラビアン<sup>メラビアン</sup>の法則）と言われるほどに大切な表情については、顔と体の向きや角度なども細かく確認をして、観客の皆様的心に



三味線職人だった鈴木政吉（左手前）が、愛知県師範学校の音楽室で、西洋の楽器「ヴァイオリン」を弾く甘利鉄吉に出会い、強い衝撃を受けるシーン。拜み倒し、甘利から1日だけヴァイオリンを借り、徹夜で構造を研究。後の発展につながった

届き、十分に楽しんでいただけける演出を心掛けました。ちびっこ俳優たちもがんばりました。お稽古では5歳のお子様から高校生まで父兄の方々の同伴をいただき、着実に台詞と踊り、歌を覚え、大人俳優のモチベーションの起爆剤となつて、本番では自然で自由闊達に楽しみながら見事に演技をしてくれました。

そして「どの子も育つ 育て方一つ」のお言葉は、また「おとも育つ 練習次第」なのでしょうね。今回のこの「音にいのちあり」鈴木鎮一愛と教育の生涯」公演を通し、鈴木先生の生涯を現代の舞台に描き出そうと努力する過程で、劇団員たちもさるなる演技力を高めることができたのだと思います。

3カ月前から舞台音楽とのコミュニケーション、照明・音響・大道具・映像の完成が近づくに連れ、1秒の無駄な間合いもカットし、引き締める作業とともに、演出の望む方向に次第に集約されて、全体の調和が取れてきました。

お客様方と心の通い合う舞台をと願って歩んでまいりましたこのたびの企画でしたが、快く出演をお引き受けくださった多くの音楽関係者の皆様に加えて、スズキ・メ

心が揺さぶられるシーンが  
たくさんありました。

読売日本交響楽団コンサートマスター

佐田正秀

父との思い出がたくさん詰まっているスズキ・メソッドの大事なイベントに参加させていただくのは、大変嬉しく光栄な機会でした。劇中、鈴木鎮一先生のドイツでのオーディションや、パーティで演奏を披露するなどのシーンで弾かせていただいたのですが、あらかじめ設定されている曲目やカットなど、とても難しい環境にたいへん悩みました。通常の演奏会とは異なつた難しさと緊張感がありました。心揺さぶられるシーンが多く、特に子どもたちの演奏では、輝く目とひたむきな演奏に大きな感動がありました。これからも鈴木先生から授かった理念が広く伝わり、世界の子どもの才能教育にさらに生かされていくことを願っています。

ヴァイオリン演奏で参加させていただき、  
本当に幸せでした。

鈴木鎮一先生の姪

松本市芸術文化祭実行委員会会長

鈴木裕子

幕が上がる前に「名古屋の子守歌」を演奏

ソード様からは、150名にのぼる才能教育研究会松本支部の子どもさん方の演奏も加わり、スズキ・メソッド出身のヴァイオリニスト佐田正秀様、ピアノ伴奏の石川咲子様、また声楽家の青山貴様という専門家の援軍を得たことが大きな力となり、長野舞台さんの照明・音響・舞台装置、版画家・切り絵作家の美しい映像も構成し、着付け結髪チームに加え、満員の観衆の皆様にも声援をいただき、舞台は大きく花開くものとなりました。

また、当初のプランから少し離れて鈴木裕子先生が、序章「喜寿のお祝いに」名古屋の子守歌」を演奏される77歳の鎮一先生のパート一を舞台で演奏してくださったことは、特筆すべき記念となりました。さらに結城賢二郎実行委員長を中心とした松本市芸術文化祭実行委員会によるチケット販売、広告集めと多大なご支援のもと、地元企業様のご協賛もあり、本当にたくさんの方々を支えられて、この舞台劇上演ができました。

この公演にお力を尽くしていただきました。すべてに関係者の皆様と、ご覧いただいた皆様、改めて衷心より感謝を申し上げます。ありがとうございます。

する大変な重責ではありましたが、叔父鎮一が晩年まで弾いていた楽器を使い、心を込めて取り組みました。まるでそこに叔父がいるような気持ちになり、鈴木家の一員としての自分を見つめ直すことができました。そして改めて鈴木鎮一という人物の偉大さを実感いたしました。現在の松本市の芸術文化のレベルの高さを思うと、それがどれだけの貢献に繋がったかは言うまでもありません。

楽しく拝見しました。

才能教育研究会会長

早野龍五

鈴木鎮一先生がお生まれになる前から始まって100年以上にわたるストーリーに、私たちも記憶しているさまざまな逸話が上手に織り込まれ、休憩15分をはさんで3時間15分の長尺を楽しく拝見しました。

スクリーンに映される背景や文字情報スムーズな場面転換、127回の練習を重ねて本番を迎えた公募で集まった出演者の方々の好演、多くの方々熱意が感じられる舞台でした。名古屋やドイツ、そして木曾のことなど、才能教育研究会発足以前の部分が、丁寧に描かれていたことも、良かったと思います。